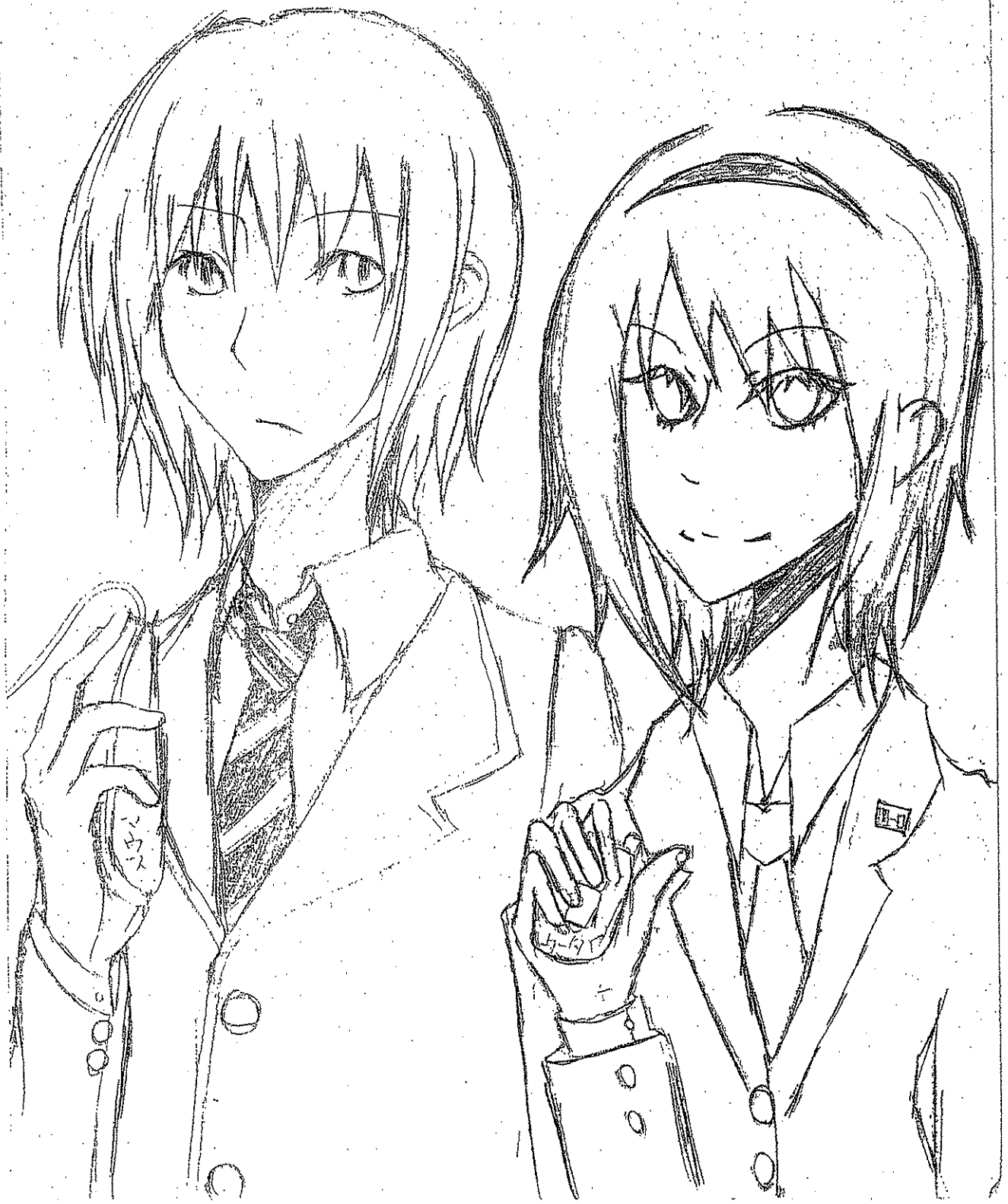
中学生の中学生による中学生のための

圏携帯(ネット)入門



目次

1．はじめに……1

2．私から見る依存……2

3．相手の目を見て話したい……3

4．ケータイがなくても暮らせる社会を……3

5．お金を払う人は親だ……4

6．メールだからこそマナーを守って……4

7．GAME in the Internet……6

8．ケータイ・ネットの危険性……6

9．外側からみる掲示板、ブログ、ＨＰ…　……7

10. なぜネットにのめりこむのか……9

11. 依存から抜け出すために……11

はじめに

昨年「携帯電話についてのアンケート」を実施し、「チェーンメールを回さなくても、何の被害もなかった。みんな、回すのはやめよう。」とか、「忙しいときに返事を返さなくても、文句を言わないようにしよう。」などと、携帯電話によるトラブルを回避できるような話し合いができました。

さて、１年経って生徒たちの様子をみてみると、毎日眠そうであったり、不思議なことばが飛び交ったりと、ケータイ・ネットにまつわる環境の大きな変化を感じました。そして、ただ変化の大きさを感じているだけでは、身近にいる大人として無責任なのではないか、ケータイやネットに接しながら、生徒が一人で悩むことも多いのではないかと考え、今年は「ケータイ・インターネットについてのアンケート」を実施することにしました。アンケート結果を読み合いながら、改めてそこに書かれている問題の大きさに驚くとともに、昨年のように、結果の読み合わせと感想程度に終わっては、これから生徒たちが賢くケータイやインターネットを使いこなすことができないのではないかとも思いました。そこで、有志を募り、パネルディスカッションを行う中で、生徒達の認識力の深さに驚き感心し、さらに現時点での生徒達の到達点を、形として残したいと感じてきたのです。

最初からこのパンフレットを作ることを目的としてきたのではなく、生徒たちのすばらしさに引っ張られてここまで来たと思っています。ただただ生徒たちに感謝します。

２００６．１１．３０

有志生徒

私から見る依存

私はケータイを持ったことが無いので今の生活と比較できないから分からないけれど、多分私はケータイを持っていないおかげで趣味をする時間や、宿題などの今やらなければならない事をする時間が沢山あるのだと思います。しかしそれでも寝る時間は１１時１２時ぐらいになってしまうので、こんな私がケータイを持つと寝る時間は更に遅くなる上、やるべき事も十分にできずに自分にとってマイナスな事ばかりになってしまうと思います。そのため私は、今のケータイを持っていいない生活で十分だと思うし、ケータイがないことで何かに不自由しているということもありません。

しかしケータイなんて便利で楽しいであろう物を持ってしまったら普通は誰でも使わずにはいられないと思うので、私がケータイを持っても結果的には依存やそれに近い状態になると思います。

なぜそう言えるかというと、私がとある友達の

「今、家に帰って凄いケータイ見たい気分なんだけど～！」

「だよね！私も！何かもう常に気になるよね！」

「私なんか家にいて暇な時、気がついたら左手にケータイ持ってるもん（笑」

「私なんて常にポケットの中に入ってるよ！」

「やっぱこれって“依存”っていうのかな～・・・」

という会話を聞いたことがあり、またそのような会話を各所で聞くことから、ケータイを持っていない私も「それほど依存しやすいものなのか」と思うのです。

そんな中、私が思う依存からの脱退は、期末試験や将来の入学試験など、ケータイを使いたくても使う時間のない時になって、「ケータイなんて使っている場合じゃない」と思って、そのときに意識して脱退する事です。そのほうがありきたりな脱却方法より簡単ですし、もっと言ってしまえば、現実に迫られて脱却「せざるを得なくなる」ような脱却方法でないと、ケータイと自分との距離をおくことができない人もいるのではないでしょうか。

結局、依存は自分の行動によるものですが、皆さんも、現実に迫られないと脱却できない人だけではないはずです。皆さんも何かで知っていると思いますが、依存で後悔するのは自分です。そのことを、今一度思い出し、生活を見直してみるのも必要ではないでしょうか。

相手の目を見て話したい

私はこの間、森本哲郎さんが書いた、「日本語根ほり葉ほり」という本の中の、謝罪の言葉について書いてある一説を読みました。

携帯電話のメールのやりとりは、「本音が言えるから良い」というアンケートの回答があったみたいです。それはきっと、相手の表情や態度、仕種などが全くわからないからだと思いました。

表情、態度、仕種はそれぞれ感情や心理によって表れるものです。だけど、ただの文書だけではそれは伝わりません。手書きの手紙ならば、字体や紙の扱い方などで伝わるかもしれませんが、携帯電話によるメールは、それすらもありません。

次に、もし、相手に対してあまり好ましくないことを言ってしまったとしても、すぐに、「ごめんなさい」などの謝罪の言葉を言えば相手にもその気持ちが伝わるかもしれません。でも上で私が述べたように、携帯電話では、相手の表情がわかりません。だから、その言葉によって相手がどれくらい傷ついたかは分からないと思います。ここが携帯電話の一番の弱点だと思います。

ですが、もし携帯メールなどを使って謝る必要がある場合は、「ごめん」や「ごめんなさい」よりは、「すみません」「申し訳ありません」などの最大級の謝罪をする方がいいことは確かだと思います。

でも、できることならば、本音は相手の目を見て話すのが一番良いと思います。

ケータイがなくても暮らせる社会を

今、社会では、公衆電話が激減していると思います。
町中や商店街の隅などで昔見かけた公衆電話が、携帯電話が増加し始めたことによって、町から姿を消しています。

このことによって、携帯を持ってないお年寄りの方々が、家族や友人に緊急で連絡することができなくなっています。

携帯電話による通話やメールは、小さな子供、お年寄りなどには少々難しいことだと思います。私の祖母も携帯電話を持ち始めましたが、何回使い方を教えてもすぐに忘れてしまいます。

このように、難しい動作を行ったり、詐欺に遭ったり、とても重大な問題が毎日おこっていると言っても過言で無いと思います。

ですが逆に考えて、携帯電話を減少させるよりも、公衆電話の増加について深く考えたほうが、てっとり

早いと思います。携帯電話を減少させるのはとても難しく、おそらくそうとう時間がかかるが、公衆電話を増加させるのは、さほど時間がかからないことだと思います。

以上のことにより、私は携帯電話の増加は周りの環境が悪いからだと思いました。

お金を払う人は親だ

ケータイにせよ何にせよ、使うときに必ず心がけておくべきことは、お金を払うのは親だ、という事だと思います。例えばケータイで何か音楽やゲームをダウンロードするとします。これにかかるお金は、結局は親が出す訳です。小遣いから出す、という人も居るかもしれませんが、その小遣いをくれるのはとどのつまり、親です。毎日夜な夜なメールをしたり、音楽などのサービスを利用したあげく、料金がとてつもなく高い物になってしまった、という話をよく聞きます。しかしそういう事をするのは、大抵は子供達です。大人はそういう事はあまりしません。払うお金は自分が汗水たらして働いて稼いだ金である、という事をわかっているからです。私達はまだ働く事を知りません。職場体験などはやっていますが、実際に現場で連日連日働く、ということはできません。だから、軽率に無駄遣いもしてしまいます。まだケータイなどの無かった時代なら、子供の使う金には、親はお小遣いという制限を設けることが出来ました。しかしケータイの場合は違います。いつでも使おうと思えばネットに接続出来、ダウンロードしようと思えばいつでもすることができます。定額制などの方法はあるが、結局はお金を払わなければいけません。そしてそれを払うのは親です。一生懸命働いて稼いだお金を払うのです。払うといっても、実際に紙幣や硬貨を数えて払うのではなく、銀行の口座などから引き落とされるのです。実際にお金は見えないので、使い過ぎにも気付きにくく、請求書が届いて初めてわかります。このような事を止めるには、まず大人の苦労をわかってみるという事から始めてみることだと思います。もちろん全部わかることは出来ませんがが、それでもある程度の自制にはつながるでしょう。一生懸命働く事の大変さを知れば、とても使いすぎる気にはなれないでしょうから。

メールだからこそマナーを守って

「私はあの人に思いの全てを伝えたい。」このように誰もが『本音』というものを、ある特定の人物に伝えたくなったり、相談したくなったりすると思います。この本音というものを伝える伝達手段は、直接話す、電話で、メールで、手紙で等、さまざまあっていつでもどこでも人と話せる環境になっているのです。

さて、その本音をケータイの中でしか話せない人がいるというのが、実際のところどう

なのでしょうか。

まず、本音を直接特定の人物に伝えるとします。相手は、本人の主張に耳をかたむけると同時に、表情を伺いながら話をきくでしょう。では、ケータイのメール、又はチャットだとどうなるでしょう。確かに、文を読めば内容は解るし、文面で熱意や感情が伝わるかもしれません。しかし、直接会って話すのと、ケータイでのメール、チャットでは、やはり双方の感情の伝わり方が違ってくると思います。

前者では、上記の通り、表情を見て、どのような話の内容なのか、また、声色によって、強調したいことはどんなことかが、聞いている人には、かなり伝わります。意味を深めるという点では、何度も訊き返せる、発展させていくような話ならば速答でできるといった利点、メリットが多数あり、内容の聞き間違いや、互いの理解のずれ違いなどは、ほぼ１００％無いでしょう。それと比較すると後者は、話しやすい、伝えやすいなどの利点はあるし、絵文字や顔文字等の充分な程の表現の方法はあります。

けれども、熱意や感情、内容はしっかり伝わるのでしょうか。文面に込めたはずの感情や内容は、本人に殆んど伝わらない場合があります。何故か。それは、思っていた事をサッと文面化することで、確実に自分独自の言葉として伝えられないからです。勿論、一概には言えませんが、文章を作る、という時点で、素直な、率直な言葉ではなく、偽りの言葉になってしまいます。この時、工夫、装飾の過剰なつけ加えによって、読み手の理解に、大きな差を生むでしょう。それだけではありません。メール、チャットでは、お話感覚で、ずっと２時間、３時間、中には朝までやっている人も出てくるのです。このように、時間を多く費やしムダを作るか、直で話し、長くても２０分、３０分、１時間で終らすのとでは、短い方が良いに決まっています。

さらに、前者には、身振り手ぶりで表現する『ボディーランゲージ』という武器があることを忘れてはいけません。このボディーランゲージの影響力は大きく、殆んど外国語が喋れない人が、外国へ行った際に、考えている事を伝える最終手段として知られている位です。

本音といっても、単に本心を伝える訳ではありません。例えば、『ありがとう』、『おめでとう』といった気持ち。この言葉を相手に言う際、どの様な方法が良いか。答えは明解です。伝える人も、面倒臭いからといって書体の決まりきった電子メールではなく、電話をかけてあげたり、癖字でもいい温かみのある手紙を送りたいと思うのが普通でしょう。無論、伝えられる側もそう願っている筈です。

会話をはじめ、『本音』というのは、直接会って話すと一番良く伝わります。逆に、「夜遅くになって、会って話すなんて事はもっての他、電話なんか失礼だ」と言う人もいるかもしれません。しかし、メールも同じで、夜遅くになったら失礼な行為に値します。利用者は、メールという便利さに魅せられ、増加する一方ですが、その反面、利用者のモラルの低下も最近よくみられます。

このようなメリット、デメリットをしっかり見分けていくことが、今を生きる私たちの課

題、テーマであり、同時に義務でもあります。大切な社会を創っていく私たちが、このような宿題を持ち、又、変化に対応していかなければならないのです。

GAME in the Internet

私は、よくインターネットをやります。大体パソコンに触らない日はほとんど無いくらいです。基本的に、大体一日１~２時間ほどやります。調べごとや、音楽、メール、チャット、ゲームなど、幅広い用途で使っています。

その中でも、一番よくやるのが、ゲームです。以前は、始めると、親に注意されるまで、ずっとやっていることもありました。今は抜け出せています。オンラインでは、家のパソコンで同じクラスの友達から日本全国の人まで、不特定多数の人とゲームができます。ゲームを通じての関わりなので、基本的に、仲良くなることもありますが、あまり関係深いものではありません。ゲームの種類もトランプだったり、冒険だったり様々です。インターネットのゲームは、普通のテレビゲームとは違い、一緒にやる友達が隣にいません。でも、一人でやるのとは違い、協力したり、相談したり、気を使ったりします。しかし、そこでも荒らし（無駄な発言を繰り返したりルールを無視したりする人）が出ます。これも、ネット上では、相手に顔が見えない、ネットを抜ければ何も届かないという点を利用しています。それが、ネットのいい所でもあり悪いところでもあると思います。

誰もが、いい所も悪い所も理解して使えるようになれば、インターネットがもっと使いやすく、楽しいものになると思います。しかし、あまり楽しすぎて抜けなくなるのは危ないです。話が飛んでいますが、いい所と悪い所を理解しなければいけないのは、現実の、こちら側の世界でも同じことだとおもいます。

ケータイ・ネットの危険性

携帯やインターネットはとても便利です。しかし、使い方を一歩間違えると大変な事になります。その例として料金の問題があり、気づかない内に請求額が万単位になっていることもあります。これは私たち中学生が払える額では無いし、親に迷惑をかけてしまう事になります。この事は料金を気にしないで使ってしまう使用者の問題であり、定額制なども使わず、何も考えないで携帯にはまってしまう事が原因だと思います。そしてはまってしまうと、自分が気づかない内に時間はどんどん過ぎていきます。これは携帯やネットを使用している人だったら一度は経験したことがあると思います。最近では、電車の中で携

帯を触っている人が絶対に１人はいます。要するにヒマ潰しをしているのでしょう。しかし、何かと時間があれば携帯やネットを使うという事は自分にとって良いことなのでしょうか。中には人間に必要な睡眠・食事・勉強の時間などを削ってまで使用する人もいます。

これらは本当に正しい使い方なのかは、少し考えれば分かる事だと思います。自分が気づかない内にお金や時間はどんどん無くなっていきます。それぞれの使用者が、どのように携帯やネットと付き合っていくのかは自分で決める事です。判断を誤れば自分を見失ってしまいます。便利な物ほど危険性がたくさん潜んでいる事をしっかり理解して、これから一生お世話になるインターネットや携帯を上手く使い、生活していきたいと思いました。

外側からみる掲示板、ブログ、HP…

私が掲示板を傍観するときに感じるのは、考えて文字を打っている人と、感情のみで文字を打っている人がいるということです。

考えて打っている人の多くは荒らしのような発言は少なく、逆に感情のみで打っていると感じられる文の多くは荒らし、または荒らしに対しての暴言等が多いと感じました。

掲示板を見ていると、自作自演等幼稚なことをするものもいるし、自分の書いた文や絵に対して「コメントください」と何度も言っている人もいれば、謙虚で優しい人、親切な人も多く存在します。

ネットというものは色々な人間が集まっているのだし、文を打っているのは生身の人間なのだから、多種多様な考え方、発言があるのは当たり前だとは思います。

故に、無知だったり幼稚だったりする人に対して厳しい発言をしたり、暴言を吐く人も多くいるのです。

無知なことは決して悪いことではないし、年齢相応の発言があって当たり前だと思います。この場合悪いのは暴言を吐く側だと私は思います。何故なら、マナーに反しているからです。

たとえ相手が荒らしだろうが何だろうが、注意をするためだったにしても暴言を吐いてしまえばその人も悪くなります。荒らしの注意の場合は、暴言でなくてもマナー違反とみなされてしまいます。これは荒らしがかえって付け上がるためです。

こう考えると、ネットでは善悪の判断がし辛く、そのために苦しんでいる人もいるのではないかと思います。

ネットでは、荒らしは悪です。でも、それを注意する者も悪になります。それがネットでなくオフであれば、荒らしは悪になり、注意する人は正義になります。

ネットとオフの間でのずれのようなものが生じ、オフでの正義が時に悪になることすらあるのです。

ネット初心者はそのことを知らず、正しいことをしたつもりが、逆に周囲に責められる立場になることもあるのです。
そういう被害者を減らすには、その掲示板の責任者、つまり管理人がしっかりと掲示板を管理する必要があると思います。
私もサイトを持っていますが、荒らしが出たらその投稿を消したり、設定してその人が書き込めないようにしたりと対処もしました。そのとき、荒らしというものをなくすのは中々大変なことだと感じました。
だけど、一度そのサイト・ブログ・掲示板等を立ち上げてしまったからには、責任を持って管理人としての責任を果たすべきだと思います。それが出来ないようなら、きつい言い方かもしれないですが、その人はサイトやブログなどは持つべきではないと思います。否、持つ資格がないといっても過言ではないと思います。被害にあうのがその人ひとりならともかく、周りの人まで被害に遭うことは合ってはならないと思うからです。
私の場合、最終的に掲示板を変え、掲示板に入室しづらくしたことによって荒らしはおさまりました。でも正直それはかなり面倒だったし、出来れば荒らしを理由に掲示板を変えるというのは、もう二度としたくはないと思います。
また、チャットでの暴言、トラブル等も決して珍しいことではないのです。
私が経験したことのあるチャットでは、言い争いが生じたり、1人の人物が２人を演じていたりしました。また、明らかに嘘であることがわかるような文をシリアスに語り、同情を誘うような真似をするものもいました。
むろん、そんなことされても私に害があるわけではないし、もともと年齢層の低いチャットだったので咎めたりはしませんでした。
そこでもやはり重要だといえるのは管理人の存在で、私の行っていたチャットはほぼ放置状態に近く、あまり管理されていませんでした。掲示板でも言い争いは多かったし、荒らしも多く存在していました。
先も同じことを述べました、このようなことにならないように、管理人はその責務を怠らないようにしなければなりません。
サイトはどうしても持ちたいが、管理できる自身が無いというならば、掲示板やチャットなどの交流用コンテンツを設けないようにすべきだと思います。
私のサイトは今、休止状態となっています。期末考査があったことが大きな理由だが、オフでネット以上に力を入れたいことができたのもまた大きな理由です。
管理できない状況に陥った際は、休止又は閉鎖し、落ち着いてまた更新や管理が出来るようになったら再開すればいいと思います。放置状態というのは一番最悪とも言えるでしょう。
偉そうなことばかり述べていますが、自分もまたブログを放置したことがあります。
でも、今は管理者としてサイト管理を怠らないようにしています。とはいっても、今現在目立った問題はありません。

管理管理といってはいますが、それはそんなに大変なことでもないし、理由があればずっと続けられるようなことだと思うので、興味のある人は作ってみてもいいと思います。
ただ、その前にある程度のマナーと知識を覚える必要があり、また、それは管理者だけではなく観覧者にも言えることです。
また、ネットではあることないこと、根も葉もない噂などが飛び交っています。その中には害のあるものも含まれている可能性があります。故に入ってくる情報を、まず疑うことからはじめるのが、被害にあわない最善の方法だと言えると思います。
一人一人が責任を持った発言、行動をすることが、ネット環境をよりよいものにしていくのだと思います。
ネットやPCは凄く便利なものです。故にこれから社会の中心の情報源として役立っていくのではないでしょうか。役に立つものは時に凶器ともなります。ネットのように誰でも自由に意見を述べられるなら、尚更そうでしょう。だからこそ一人一人の意識や責任が重要だといえます。

なぜネットにめりこむのか

私はＰＣをやり始めたのが幼稚園、ネットをはじめたのが小学校中学年頃でした。

まずは浅いところからメリットとデメリットについて話そうと思います。メリットは、今までかかわりの無かった全くの赤の他人と知り合えたり、話を聞けたりする、と言う事です。これによって世界の幅は大きく広がります。そして、きっと今までとはまったく別の視点で世界を見ることが出来るはずです。これは面白いことでもあり、悲しいことでもあったりします。

デメリットは、目が悪くなる事や字が汚くなる事です。私は小５の夏休みにＰＣばかりやっていたところ、夏休み明けには思うように字が書けなくなっていて、最近ではあまりそんなことはありませんが、それでも字は汚いので、「ＰＣのほうが良いなぁ…。」と思うのは常の事です。

なぜ人はネットにのめりこんでしまうのか、私なりに分析してみようといます。
のめりこむ理由として、自分の気持ちも取り入れて考えてみると、やはり「友達にいえないことがいえる」と言う点にあると思います。なぜ知らない人間なのにそんなことが出来るのか?私は思うに警戒心の種類の差だと思うのです。確かに顔も分からない、名前も分からない。そこは警戒心を持たなければいけません。しかし、相手がこちらの存在をネットでしか知らない場合には話した悩みも相談ごとも、自分の周りで噂になる事はありません。ここが私のネットに持つ安心感の理由ではないでしょうか。もし、ネット内の００さんとして私の噂が流れても、ハンドルネームを変えてしまえば、また全く別の人間にもなれるの

でその点も安心です。

しかし、現実ではそういうわけにもいかないのです。公の場で、それが善い事でも悪い事でも褒め言葉、悪口、賛否両論が出てきます。誰が「何も言うな」と言ったところで陰口をやめるのはほんの僅かです。現実世界ではそういう恐ろしさがあるから、何か１つ物事をするのも億劫になってしまいます。こちらは、そういう警戒心が必要になってしまうのです。相手の本当の心は、文章より分かりづらいとおもいます。文章だと相手の本当の心隠れすぎて考えずにすむから楽なのかもしれません。

それにネットでは、現実世界の自分を考えずに済みます。前に書いた噂だけでなく、そのほか諸々含めて新しい自分が作れます。だから、外国人にもなれれば、男にも女にもなれるし、五歳児にもなれれば六十歳にもなれるのです。これは、違う自分になれるという点では良いかもしれませんが、危険と隣り合わせであるということを忘れないようにしないと大変なことになります。自分が自分とは違う人物を演じているという事は、想像できないほどの人数の人が存在するネットと言う空間では、どれほど多くの人が自分以外の人間を演じているか分からないのです。だから、簡単な甘い考えで「あ、大田区？近いじゃん。会おう、会おう」と言うのはやめたほうが良いと思います。よく考えるべきなのです。ネットでよく知っているのはその人の１割程度のことで、しかもその知ってるはずの事さえも全て嘘と言う事もありえることなのです。

また、ネットのとても大きなデメリットとして、孤独に慣れてしまうということはないでしょうか。確かに文字で話しているのは生身の人間ですが、それでも自分の目の前にあるのはパーソナルコンピューターという無機物、機械なのです。そればかりに慣れてしまうと、久しぶりに人にあったとき、気付かないうちに話すのが面倒くさくはなっていないでしょうか。前は休み時間は少し無理をしても誰かと一緒にいようと思ったのに、今は「別にいつもベッタリしていなくてもいいか。」と目の前の人との付き合いが面倒になったりしないでしょうか。

ネットの場合は興味の無かったり話したくない人書き込みしてこなかったから良かったのですが、たとえば深く付き合っていない人でも、同じクラスにいれば現実では「コトバ」はある程度の影響力を持つし、クラスで発する言葉に必ず責任を持たなければいけません。自分が適当なことを言って、その言葉がもとで誤解が生じたり、トラブルが起きてしまうことが現実ではよくあり、私はそれがとても怖いのです。

確かにある程度の警戒心ををもって、日ごろ言えない悩みを言えることは良い事かもしれません。だけど、出来れば私のようにのめりこむ人はこれ以上増えてほしくないと思います。現実に現実味がもてなくなってしまうからです。授業の始めと終わりに起立する時だって、実はみんな立ってなくて１人で立ってる自分は笑われてるんじゃないかとか、自分では気付いていないけれどこれが大きな夢なんじゃないかとか、そんなことを思わず感じてしまうときも過去にはあったのです。それに人間不信、自己嫌悪に陥ったのは１度や２度の事ではありません。(人間不信は過去の事ですが。)周りにいてくれる人の真意の見え

ない現実が怖かったのです。

ネットに現実が影響するのは常のことですが、それが逆転してしまった場合はは、どちらが自分にとって本当に大切にしなきゃいけない世界か分からなくなってしまいます。だから、ネットと現実をしっかりと区別し、ネットを趣味の範囲にとどめなくなくていけないと私はつくづく思っています。ネットは所詮本と同じもので、閉じてしまえばもう「サヨナラ」で自分との関係を打ち切ることができる物です。「そんなもののために現実をおろそかにしたらもったいない」と、みんなには思ってほしいのです。

そういいながらも、私はこれからもＰＣと日常的に付き合っていくでしょう。しかしあくまでも趣味のレベルにとどめておきたいのです。精神的なメリットはありますが、技術面ではあまり私も上のほうではありませんし、パソコンだけで生きたいなどとは思いません。

「これから私も、地に足つけて頑張らないとなぁ」と思っている現在です。

依存から抜け出すために

パソコン、携帯は人を変える。これは自分の経験から思った一番のことです。

私は中学一年の夏休み、今はっきり自覚できるほど携帯やパソコンを過度に使用していました。朝食後から寝る前まで、それこそ文字通り「おはようから　おやすみまで　ラ○オン」と同じ使いようです。

その中でまず思ったことの一つ目。今「おはようから　おやすみまで」パソコンや携帯使っていたと述べましたが、自分で意識して長時間パソコンや携帯を使おうと思って使っていたことはありませんでした。皆さんもきっとそうでしょう。しかし、使っていくうちにいつの間にか時間はたつのです。もちろんそれは当然のことです。なぜなら、自分の興味のあることで次々と見たいサイトが見つかり、携帯はどこにいても誰かとつながることができるのですから。

しかし、そうやってはまり込んでいく、人はそれを「依存」といいますが、他にやることがあるのにそれが頭から離れていってしまう。それはちょっとどうでしょうか？私は、パソコンを終えた後、時計の針に驚愕し、その日やりたいことができなかった後悔を味わったことが多々あります。そのやりたかったことが勉強以外ならともかく、今の私たちは学生生徒である以上、宿題までもおろそかにするのはいかがなものでしょう？

「夏休みの２日前はほぼ徹夜状態だったよぉ」さてそれは武勇伝でしょうか？私はそうは思いません。あれ？貴方、夏休み前と比べて眼鏡の度が強くなっていませんか？

おそらくほとんどの方が気付いたでしょう。もちろん私のことです。

また、パソコン、携帯等、液晶画面が相手では、人はいくらでも意地悪く、無責任にな

れるようです。私自身ネット上で「死ね」「邪魔」などなど言ったことは数知れず、言われた事も数知れずあります。

あ、「現実世界でもそうじゃないか」という意見はナシでお願いしますね。

罵声を浴びせる相手の顔も知らない、名前も知らない、会ったこともないという状況では、いくらでも勝手なことが言える上、罵声ついでに日ごろの憂さ晴らしにでも、といったこともできてしまいます。友達とのメールでも同じく軽率な発言ができるのは確かです。相手が生身の人間であると思わなくてよいからでしょう。友達の陰口ならなおさら。自分の目先に見えるものは、あくまでも液晶画面です。

しかし、言われたほうは陰口、罵声の内容をそのまま見たりしたり、転送されて見るのがほとんどでしょう。見たほうは少なからず、文章の内容を疑うことはありません。それより、さらにひどいことをあいつは思っているのではないか、というような想像へといってしまうのがむしろ多いのではないでしょうか？最近の小中学生の自殺にも携帯がかかわっている例があると聞きますので、言葉の暴力はもはや暴力ではなく、凶器であることを自覚してほしいものです。

では、私がいまこのような偉そうな文章を書いていることには、私自身今もパソコンや携帯に依存していたり、ネットで平気で罵声を言うようでは示しがつきません。ですが、今は自ら言うのもなんですが、依存などから脱退したと言える自信があります。

その「依存脱退」の理由のひとつは、夏休みの終盤になるにしたがって気になってくる時計の存在です。「あともうちょっとだけ」という時間設定は自分にとってはいくらでも長い時間でも、「自分にとっての後もうちょっと」ということになります。時計を見たからには、誰でも具体的に何時と決めることができると思います。

また、パソコンを複数人で共有（たとえば家族内）することも時間を考えるよい方法だと思います。自分も親や兄弟姉妹と共有しているので、実質パソコンが使用できる時間が分数倍に減っていきます。兄弟なら歳が近ければなおさらです。

もうひとつは、パソコンをやり終えた後、得るものが何もなかった経験が多く、その空虚感が嫌になった、というものもあります。もちろん、得るもの、学ぶことのあった場合も多々ありますが、それは大抵が短時間でできることでした。ググダダと他のサイトを見ながらでは早くは終わらず、結局時間を無駄にしてしまうのです。

今思うことは、前の自分にもう少し余暇があったら、その時間すらもインターネットにいえてしまっただろうと言うことです。依存というものは、自分ひとり（そう、本当に一人）ではきっと直らないものだと思います。兄弟や親の注意があって、初めて自分が見直せたようなものです。しかし、時計を見ることなら誰にだってできます。そうして少しずつでもパソコン、携帯に費やす時間を減らしていくこと、それはたとえ微量でも、大きな進歩、大きな努力であると確信して間違いありません。

このパンフレットを読んで思ったことを、自分のために書いておきましょう。

1．今の自分のケータイの利用について考えたこと。もっていない人は、もったら気をつけたいこと。

2．今の自分のパソコンやインターネットの利用について考えたこと。

3．その他なんでも、パンフレットを読んで思ったこと。

2年（　　）組　　氏名（　　）

添付資料

以下の文は、２００７年に大山が研究誌に載せるために書いたものです。ケータイ・インターネットの授業実践についての流れが、少しはお伝えできるかと思い、生徒が作成したパンフレットに添付させていただきます。

題　中学生とケータイ・ネットについて考える　　公立中学校　大山　圭湖

1　はじめに

今年度、私は中学校３年生を担任しています。40人の４クラスで、なかなかやんちゃな生徒が多く、3年生の秋になっても、人間関係でのトラブルで悩むということがあります。

彼らは１年生の時に、約半分の生徒がケータイを持っていました。そして、ケータイについてのトラブルが起こり、何人かの生徒が悩みを相談に来ました。そこで、どういうことが起こっているのかを、無記名でアンケート調査し、互いに解決方法を話し合うことにしました。

「ケータイについて悩んでいることを出してください」という問いに対して、「チェーンメールが友だちから回ってきた。どうしていいかわからない。」「メールで自分の悪口を回されているらしい。すごく嫌だ。」「ブリーフとか、変な言葉がケータイに入ってくる。クラスの男子がいつも言い合っていることだから、あの子たちだと思う。」「夜遅くメールがきたけれど、親に怒られるから返事をしないでいたら、次の日に学校で口をきいてくれなかった。」「変なサイトにとんだら、高額の請求がきた。」「友だちにメールアドレスを教えたら、他の知られたくない人にも知られた。」など、さまざまな悩みがアンケート結果から見えてきました。

さて、アンケートの集計結果について各クラスで話し合った結果、それぞれの問題についての解決策が出てきました。例えば、「メールの返事がすぐにできないような状況だったら、今は無理と１回返事して、あとはもうお互いにやめるようにしよう。」などと、クラスごとのルールを作ったり、「メールの中で悪口をいうのは、文字で残るし、すごく嫌で、学校に来られなくなる人も出ちゃうかもしれないからやめよう。」と、互いの気持ちを考えたり、「チェーンメールを止めたけど、怖いことは起こらなかったよ。」「このサイトは行かないほうがいいよ。僕は、親にすごく迷惑かけたから。」などという情報交換をしたりしました。

その結果、ケータイによるトラブルが、ぐんと少なくなったのです。

2　2年生での取り組み

2年生の2学期に、生徒たちの様子に変化が起こりました。それまでは元気に授業に取り組んでいたのに、授業中に居眠りをする者が増えたり、何となくぼんやりしていて、元気がないような生徒が出てきたりしたのです。そして、もれ聞こえてくる生徒同士の会話から、その裏側にはケータイやネットを長時間使用し、なかなかやめられないという状態

が見えてきました。

そのため、2年生の11月に、総合的な学習の時間や道徳、学級活動の多くを割いて、ケータイやネットの学習を計画しました。それは、①ケータイ・ネットについてのアンケート調査を行うこと　②アンケート結果についての話し合いをクラスごとに行うこと　③学年の生徒全員によるパネルディスカッションを実施すること　④国語の課題として、「ケータイやネットについて」というテーマで意見作文を２年生全員が書き、そのうちのいくつかを学年だよりに載せ、生徒同士だけでなく親にも読んでもらうというものでした。

３　アンケート結果からみえた依存の問題

アンケートの項目は、次の１３にしました。

１．あなたは携帯電話をもっていますか。
２．あなたは、自分用のパソコンをもっていますか。
３．自分の携帯やパソコン以外で、携帯やパソコンを利用したことがありますか。
４．ケータイやパソコンを使う目的は何ですか。
５．ケータイやパソコンなどであった不利益なことや困ったことを答えてください。
６．ケータイやパソコンの使用での良かったこと、メリットはどんなことですか。
７．ケータイやインターネットがこの世からなくなったらどうなると思いますか。
８．チャットやその他でであった人に、どのような気もちをもっていますか。
９．余暇で一番多く時間を費やしていることはどんなことですか。
10. 小・中学生が自由にケータイやインターネットを使うことについて、どのような意見をもっていますか。
11. ケータイやインターネットは、今後どのように使われると思いますか。
12. ケータイやインターネットをもっていない人で、これらがないことで困ったことがあったら答えてください。
13. ケータイやインターネットのことで、日ごろ感じていることや疑問があったら、答えてください。

このアンケート結果から、3分の２以上の生徒が携帯電話を所持し、家で自由にインターネットを利用できる者は、3分の２近くいるということがわかりました。余暇の使い方では、メール・画像をとる・ゲーム・掲示板などを見ている・ネットやケータイのサイトを見るなど、ケータイやネットに接する時間が最も長い生徒は、150人中82人に及びました。その後、テレビが22名、読書が13名と続きます。

その質問の一つの、「ケータイやインターネットが、この世からなくなったらどうなると思いますか」という項目についての答えを見たとき、（やはり）という思いとともに、かなりショックを受けました。回答は、次のようでした。

・　あまり困らない…31名
・　とても不便になる…48名

・ 毎日をただボーっと生きるだけ。暇になる。つまらない…5名
・ メールがしたくていらいらする…3名
・ 本音が言えなくなる…1名
・ 自分は中毒なので、死ぬか精神がおかしくなる…1名
・ 依存している人や他の若者、ネットの友だちしかいない人が困る…4名
・ 世界が終わる。今の日本でなくなる…3名

このアンケートの結果から、ケータイやインターネットが、生徒たちの精神面に大きく影響していることがわかりました。そして、メールやインターネット等に費やす時間が、毎日1～2時間はざらで、6時間にも及ぶ者もいることが分かってきました。

その後、各学級でアンケート結果を読み、話し合いました。生徒たちは、ケータイやネットで悩むことや、みんなはどのくらい長く接しているのかという疑問を抱くことはあっても、何となくケータイやネットは、個人の問題という感じが強く、話題にしてこなかったのだそうです。そのために、学年で実態をオープンにしながら、一人ひとりが考えるというやり方は、みんなの考えを知ることができて嬉しかったという意見が出ました。

その後、学年集会で、「この間のアンケート結果から、みんなは多くのことを考えていると思うのだけれど、パネルディスカッションをやって、もっとみんなに話し合ってもらい、日本中で一番ネットやケータイを賢く使える中学生になってほしいのです。それで、今、パネリストを募りたいのだけれど。」と、私が生徒たちに呼びかけました。すると、その場で7人、あとで3人の希望者が出てきました。

早速その日の放課後、パネルディスカッションのパネラー10名と、この結果を見ながら、どのようなことを中心に話し合ったらいいかということを、打ち合わせました。生徒たちは、特に、メールでしか本音を言えないというのは寂しいし、本音と思っていることが実は、ただの悪口ということもとても多いのだから、基本は互いの顔を見て話すことだと強調したいという方向に決まりました。

パネルディスカッション当日は、このメールでしか本音をいえないという問題を討論の中心に据え、話し合いは進行しましたが、その他にも、パネラーから依存状態に陥ったことなど、さまざまな体験が出され、改めてケータイ・ネットについて考える機会になりました。

4　生徒が作ったケータイ・ネットのパンフ

パネルディスカッションは、たった1時間で行ったため、パネラーが、伝えたかったことの全てを語ることができませんでした。それで、パネリスト以外の執筆者も加えて、「生徒による生徒のためのケータイ・ネット入門」という小冊子を作ることにしました。

誰がどのようなことを書くか、生徒たち中心に内容を決め、分担して原稿を書き、互いに推敲して、1週間でパンフレットを仕上げました。目次は以下のとおりです。

1．はじめに

2．私から見る依存
3．相手の目を見て話したい
4．ケータイがなくても暮らせる社会を
5．お金を払う人は親だ
6．メールだからこそマナーを守って
7．Game In the internet
8．ケータイ・ネットの危険性
9．外側からみる掲示板・ブログ
10．なぜネットにのめりこむのか
11．依存から抜け出すために

執筆、編集、校正まで生徒たちが行いました。「インターネットゲームの話題を書けるやつが必要だよなあ」「じゃあ、俺が〇〇に頼むよ」という具合に、生徒の立場からケータイ・ネットについて必要だと思われる項目を挙げ、それについて詳しい仲間を、書き手として誘いました。あとは家で書いてきた原稿を持ち寄っては、「これじゃあ、やったことのない私には、何のことかわからないよ。もっとていねいにここのところを書いてよ」と原稿について意見を言い合い、手がけてから1週間で仕上げ、フロッピーを私に届けてくれました。

この小冊子も、2年生全員で読み合い、学習しました。

次に、ある生徒が自分の依存状態を書き綴った一節を紹介します。

「(前略) ネットのとても大きなデメリットとして、孤独に慣れてしまうということはないでしょうか。確かに文字で話しているのは、生身の人間ですが、それでも自分の目の前にあるのはパーソナルコンピューターという無機物、機械なのです。そればかりに慣れてしまうと、久しぶりに人に会ったとき、気付かないうちに話すのが面倒臭くなっていないでしょうか。前は休み時間は少し無理をしても誰かと一緒にいようと思ったのに、今は『別にいつもべったりしていなくてもいいか』と、目の前の人との付き合いが面倒になったりしないでしょうか。(中略) ネットに現実が影響するのは常のことですが、それが逆転してしまった場合は、どちらが自分にとって本当に大切にしなきゃいけない世界か分からなくなってしまいます。だから、ネットと現実をしっかりと区別し、ネットを趣味の世界に止めなくてはいけないと私はつくづく思っています。ネットなどのために、現実をおろそかにしたらもったいないと、みんなには思ってほしいのです。これから私も、地に足つけて頑張らないとなあと思っている現在です。」

一度依存状態に陥った彼女は、自分がなぜそんなにのめりこんでいったのか、ていねいに見つめながら書いています。この率直なことばは、これからネットに接しようとする生徒たちの心に響きました。また、彼女自身が、書くことによって、依存を乗り越えたことを、自分自身で確認できたのだと思います。彼女が依存から抜け出したきっかけは、ハムスターを飼うことだったようです。目の前に、自分が世話をしなければならない小動物が

存在するということは、架空の世界に埋没することと、対極であり、それこそ現実そのものだったのです。

5　パンフを読んだ生徒の感想より

このパンフレットを読みあった後、生徒たちに短い感想を書いてもらいました。それをいくつか紹介します。

- メール・チャットでは、相手の表情が見えないので、あまり相手の気持ちを考えずに話せるのだと思いました。確かに、本音を言えるのはいいことだと思うけれど、メール・チャットではなく、直接本音が言えたらもっといいと思います。でも、必要のない本音は言わなくてもいいと思います。
- このパンフレットや学習がなかったら、私はますますケータイやネットに依存していったと思うし、そういう人がもっと増えていったと思います。ケータイを使うと視力は落ちるし、勉強がおろそかになったりして、いい点より、よくない点の方が多い気がしてきました。なので、私も頑張って、使う回数、サイトへ行く回数を減らしたいと思います。
- ネットにのめりこんで、自分が変わっていってしまわないのかという、疑問や不安を感じた。
- すごい自分の意見がしっかり書かれていると思った。考えたつもりでも、まだまだ考えなければいけないことを、たくさん見つけさせられた。

6　おわりに

今、この生徒たちは、受験のための面談をひかえています。私たち教員は、内申得点を目の前にしつつ、3年生全員がそれぞれの頑張りを、今回の定期考査でしてくれたのだなあと実感しています。それでも、いくら頑張っても、志望する進路に全員が進めるわけではないという現実が、生徒たちの目の前に迫ってきているのです。しかし、目の前の勉強から逃げたくて、ケータイやネットに依存していったという生徒は、今の段階で、ほとんどいなかったと感じています。もちろん、つぶさに調査をしたわけではないので、こちらが気付かずに、依存状態になっている生徒もいるのかもしれません。とにかく、ケータイやネットは常に生徒の身近にあり、私たちの目に見えないところで、生徒はそれらに接するのですから、一瞬たりとも油断できないのです。これから冬休みに入りますが、勉強の合間に、短時間でお互いの近況を確認しあったり、励ましあったりというメールの利用のしかたを、生徒たちがしてくれることを願っています。

とにかくケータイ・ネットについては、生徒たち自身が主体的に考えて、賢い使い手になるしか、問題解決の糸口はないと考えています。